

1. 自転車活用推進計画について

1) 計画の目的と背景

平成29（2017）年5月、自転車活用推進法が施行され、地方自治体においても自転車活用推進計画の策定に努めることとされました。本市においては「和泉市地域公共交通網形成計画（平成31（2019）年3月）」で自転車に関する施策を定めていましたが、本市の自転車利用の課題、これまでの取組や社会情勢の変化を踏まえ、自転車を安心・安全に利用し、市民・来訪者の自転車利用を促進する環境創出を計画的に展開していくため、本計画として取りまとめるものです。

2) 計画の位置づけと期間

- 本計画は、国の「自転車活用推進計画」及び「大阪府自転車活用推進計画」を勘案し、市の上位計画である「第6次和泉市総合計画」及び「和泉市都市計画マスタープラン」などの関連計画と連携・整合を図り、本市の自転車活用の現状・課題に応じた自転車政策に関する最上位計画として位置づけ、自転車活用推進法第11条に基づく計画とします。
- 計画期間：令和8（2026）年度～令和17（2035）年度の10年間

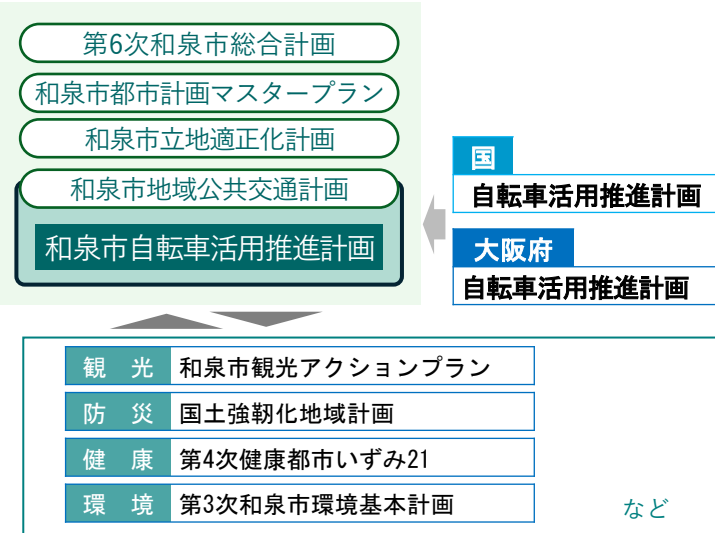


図1. 和泉市自転車活用推進計画の位置付け

2. 本市の自転車利用の現状

1) 自転車利用の現状と課題

① 利用状況

自転車の利用率

- 和泉府中駅周辺を中心に北部・北西部地域が高く南部地域で低い。
- 駅別では、北信太駅が43%と最も高く、次いで光明池駅の23%（平日）。
- 和泉府中駅は22%（平日）で、平日・休日での利用率にあまり変化がない。

自転車利用の年齢別

- 10～20歳未満の自転車の利用割合が高い。（平日：23%、休日：26%）
- 80歳以上は平日が23%と高い。

買物利用の主な目的地

- 和泉府中駅や和泉中央駅に分布（市民アンケート結果より）

- 自転車利用の多い地域（住宅地や鉄道駅又はその周辺）と目的地（鉄道駅）を結ぶ道路の自転車の通行空間の整備が必要

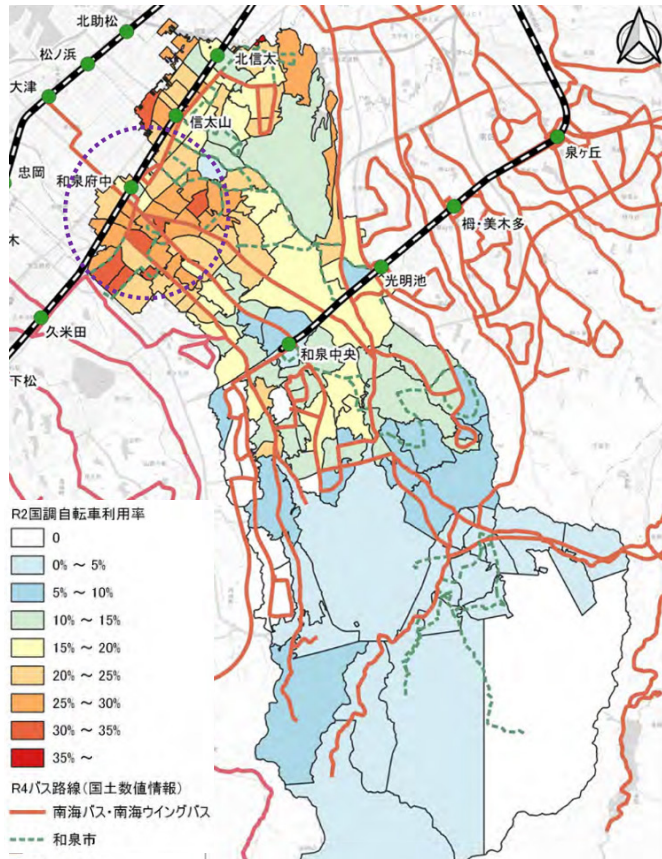


図2. 居住者の通勤・通学時の自転車利用率

出典：和泉市地域公共交通計画

② 自転車関連事故の状況

自転車関連事故

- 平成30（2018）年以降は横ばい、または微増。
- 事故の7割は交差点で、比較的狭い道路同士の交差点が多い。
- 自動車と自転車の事故が約85%を占める。
- 年代は24歳以下が約5割と、若年層の事故割合が多い。
- 朝夕の通勤通学時間帯に多い。

人口千人当たりの自転車関連事故件数（令和6（2024）年）

- 本市は0.90で、府内で16番目に多い。
- 自転車利用率に近い府内自治体の中で、やや高め。

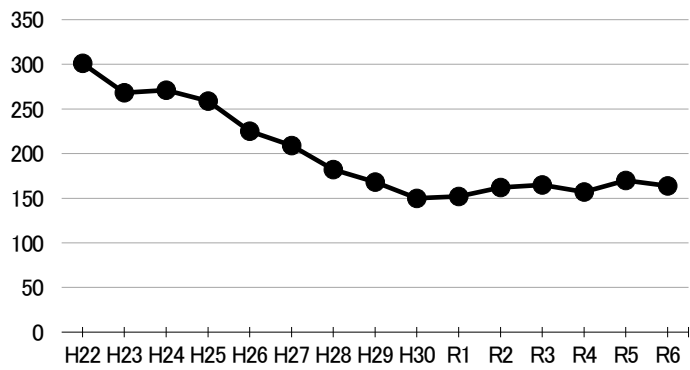


図3. 本市の自転車関連事故件数の推移

出典：大阪府の交通白書

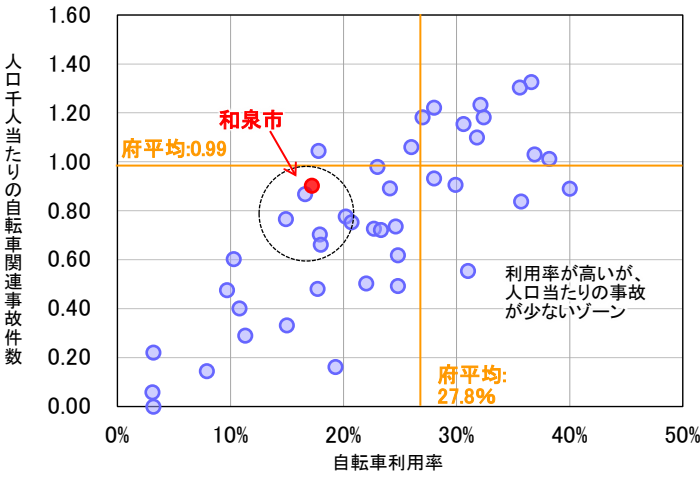


図5. 自転車関連事故と自転車利用率

- 若年層などが事故に遭わないように自転車を安心・安全に利用できる環境づくりと自転車の安全利用への取組の推進が必要

③ 自転車利用環境

自転車通行空間

- 和泉府中駅前等の道路で一部整備、市内は0.8kmが整備済。

放置自転車の撤去台数

- 令和6（2024）年度は404台で、内禁止区域内が318台。

駐輪場の整備等

- 鉄道駅周辺に6箇所の公営駐輪場を設置、約3,900台の収容が可能。
- 鉄道駅周辺を放置自転車禁止区域に指定。

シェアサイクルの導入

- 令和6（2024）年11月より導入し、市内29箇所にポートを設置。（令和7（2025）年7月時点）

- 自転車利用の多い地域（住宅地や鉄道駅又はその周辺）と目的地を結ぶ道路の自転車の通行空間の整備が必要【再掲】
- 市内移動の自転車利用促進を図るため、シェアサイクルの活用推進

④ その他

- 道路交通法の改正などによる自転車を取り巻く状況の変化
- ・自転車乗車用ヘルメット着用の努力義務
- ・スマートフォンや飲酒等に対する新たな罰則規定の整備
- ・交通違反に交通反則通告制度（青切符）が適用（令和8（2026）年4月）
- ・電動キックボード等の新たなモビリティの導入



図6. 自転車通行空間の整備（和泉府中駅前の道路）



図7. シェアサイクルの周知チラシ

3. 計画の目標と取組

国や府の自転車活用推進計画、本市の自転車の利用状況・課題、取組状況を踏まえ下記の目標及び施策を進めていきます。

各目標下の※は、次期（第3次）自転車活用推進計画の関連する目標（令和7（2025）年10月時点）

目標	方向性	取組み
目標1 自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成	自転車の利用が高い住宅地と鉄道駅を結ぶ路線を基本に自転車の通行空間の整備を図ります。 自転車が交通手段の一つとして選択されるよう、駐輪場の整備やシェアサイクルのポート設置を進め、利便性向上を図ります。	● 自転車通行空間の整備 ● 駐輪場の新設（北信太駅前）・維持管理・利便性向上（キャッシュレス導入、IT化） ● シェアサイクルポートの充実 ● 放置自転車対策の実施 ● 他事業と連携した自転車の利用環境づくり ● 自転車利用促進による環境負荷低減の推進
※目標1：安全で快適な走行環境等の整備による良好な自転車利用環境の実現／目標3：自転車交通の役割拡大による地域の良好な移動環境の形成／ 目標4：自転車利用の促進による活力ある健康長寿社会や脱炭素社会の実現		
目標2 サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現	サイクルスポーツの実施やサイクリイベントの開催など自転車の楽しさを伝えるとともに、日常の自転車利用機会を創出することで、自転車の利用を促進し、市民の健康増進を図ります。	● サイクルスポーツの推進（体験環境整備 など） ● イベント等で自転車の楽しさや魅力の情報発信（ランバイクいずみチャレンジカップ など） ● 自転車移動の推進による健康増進
※目標4：自転車利用の促進による活力ある健康長寿社会や脱炭素社会の実現		
目標3 来訪促進に資するサイクルツーリズムの推進	市内への来訪者の回遊性向上や公共交通の補完等のため、シェアサイクルの活用を推進します。	● 市内周遊などへのシェアサイクルの活用推進 ● シェアサイクルポートの設置推進（公共施設や集客施設へのポート設置 など）
※目標5：サイクルツーリズム等の推進による観光地域づくりや地域の活性化		
目標4 自転車事故のない安全で安心な社会の実現	交通安全教室の実施強化や啓発活動、交通安全教育指導員の養成等を継続して実施していきます。 自転車のルール・マナーに関しては、より効果的な周知・啓発を実施し、自転車の安全利用への意識を高めていきます。通学路等に関しては、関係部局と連携を図ります。また、災害時の自転車の活用について検討していきます。	● 交通安全教育の実施強化（交通安全教室（自転車）の全学校実施 など） ● 警察や関係機関等と協働した啓発活動の実施（街頭キャンペーン など） ● 交通安全教育指導員の継続的養成 ● 自転車の交通ルール・マナーの周知・啓発（路面表示の情報発信 など） ● 自転車ヘルメットの着用推進（購入補助の実施 など） ● 自転車通行空間の整備【再掲】 ● 通学路に関する交通安全の情報共有 ● 災害時の自転車の活用検討（シェアサイクルの活用検討 など）

※目標2：自転車事故のない安全で安心な社会の実現

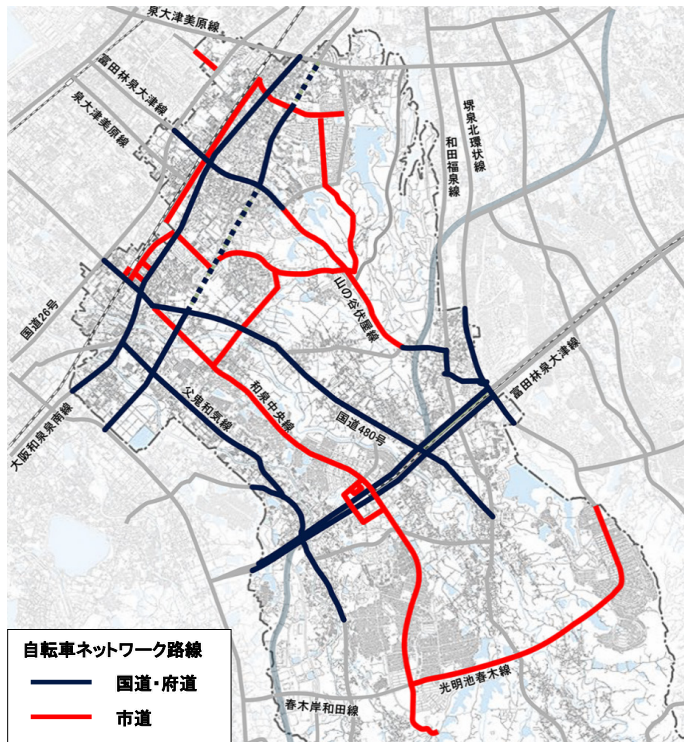


図8. 本市の自転車ネットワーク路線

自転車ネットワーク路線の選定

【ネットワークの視点】

- 視点1:市内の鉄道駅と主要地域間を結ぶ
- 視点2:市内の主要な地域間を結ぶ
- 視点3:自転車ネットワーク路線間の連続性
- 視点4:既に自転車通行空間が整備されている
- 視点5:隣接自治体の自転車ネットワーク路線との連続性

【安全の視点】

- 視点1:自転車の利用が多い
- 視点2:自転車関連事故の発生密度が高い



整備の優先度の考え方

【優先度の設定の視点】

- 優先度1：自転車関連事故の密度が高い路線
自転車交通量が多い路線
- 優先度2：自動車交通量が多い路線
鉄道駅との接続路線
- 優先度3：優先度1、2以外の路線

◎優先度は自転車の通行環境整備の必要性が高い順ではあるが整備を進める順ではありません。優先度1の路線の整備がすべて完了しないと、優先度2の路線の整備ができないということではなく、優先度2の路線などでも整備準備ができた路線は整備を進めていきます。

表9. 基本的な整備形態（イメージ）

整備形態	整備イメージ
自転車道	A. 自転車と自動車を構造物により分離する場合 
自転車専用通行帯	B. 車道内で自転車と自動車の通行帯を分離する場合 
車道混在	C. 車道混在とする場合 
その他の整備検討	上記の整備形態での整備が難しい場合 道路状況、交通状況等を踏まえつつ、限られた道路空間で歩行者の安全を確保できるよう方策の検討を図ります。

4. 計画の推進に向けて

目標達成に向け、以下の評価指標を設定し、取り組んでいきます。

評価項目	現状	中間目標値 〔令和12年度 (2030年度)〕	目標値 〔令和17年度 (2035年度)〕
自転車の利用率（分担率）の向上	14% 【パーソトリップ調査 (令和3(2021)年)】	15.5%	17%
自転車通行空間の整備延長	0.8 km 【令和7(2025)年 3月末時点】	5 km	10km
サイクリイベントの実施	2回	現状値以上	現状値以上
サイクルスポーツ体験環境の整備	なし	1件	1件
市有施設へのシェアサイクルポートの設置	12箇所 【令和7(2025)年 6月時点】	15箇所	20箇所
自転車関連事故件数（人口千人当たりの件数）	0.90件 【令和6(2024)年】	0.75件	0.60件
交通安全教室（自転車）実施校	小学校 11校 中学校 5校 ※義務教育学校 前期・後期課程含む	小学校 16校 中学校 全校 ※義務教育学校 前期・後期課程含む	全校実施



図10. サイクルアンドバスライド

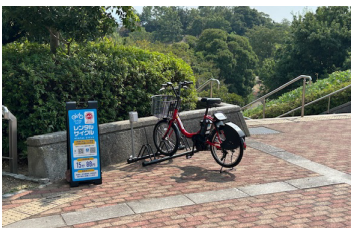


図11. シェアサイクルのポート（中央公園）



図12. ランバイクいずみチャレンジカップ



図13. 本市の自転車利用の特集の広報紙